

# 研究所の発足に当たって

(社)北海道地域農業研究所

理事長 上田恒夫

当研究所は、道内の産・官・学の総力を結集して、新しい実践的な研究機関として北海道農業の振興にかかわる諸問題を地域の視点から独自に研究をすすめるとともに、農協や行政の地域振興策の樹立・実践を積極的に支援するシンクタンクとしての役割を果たすことを目的とし、あわせて生産者と消費者の交流にも貢献することを願って設立されました。二年余りにわたる関係者の協議を経て、平成二年四月に準備委員会を発足し、設立に向けて取り進めてまいりました。同年十二月四日に設立総会を開催、同月中に北海道知事より社団法人の許可を受け法人登録も完了し、名実ともに発足することができました。その間、準備や会員の加入推進等について、関係機関・団体の方がたには深いご理解とご支援を賜りましたことを改めて厚くお礼申し上げます。次第です。

去る十二月十八日には設立記念講演会と祝賀会を開催しましたが、席上多くの方がた



から激励の言葉をいただき、とりわけ記念講演では、神戸大学名誉教授山本修氏に「これからの地域農業と農協」と題し、農業振興に関する多くの示唆をいただき、かつ、京都にある農業開発研修センターの活動の先進的体験から、当研究所の進むべき方向、研究（提言）と実践について、数かずのご教示をいただくことができました。

当研究所の事業は、九十年代北海道農業の基本問題と基本対策に関する調査研究を重点課題とし、地域農業システム、農協の運営体制、農畜産物の流通に関する調査研究を柱とします。また、農業に関する情報の収集と提供、その他地域農業に関する調査研究の受託、研究会等への講師派遣に取り組んで参ります。

このため、体制として、道内の各大学、農業試験場の研究者にスタッフとして支援いただくこと、また、行政、農協、連合会等々の実践活動に結び付けるよう、参与会、幹事を構成し、課題ごとにプロジェクトを作ることとします。

発足後二カ月余が過ぎましたが、すでに委託調査（共同研究）の要請が相当数持ち込まれております。また、研修、諸行事への派遣要請も多く、期待の強さが感じられます。

北海道農業が開拓以来の危機に直面している昨今、課題山積する中で早急に解決を要することはかりですが、発足後間もない研究所ですから徐々に体制を整え、研究の蓄積、情報の収集、提供を行うよう努力いたします。このため運営の健全化を目指し、広く市町村、農協、関係機関・団体の加入および支援につきまして、深いご理解ご協力をお願いしたいと思います。